

<11月例会レジュメ>

「帝国議会開設前後の政党・政派間競合
：静岡県内の動向の再検討」

池田真歩

報告者の基本的な関心は、近代社会における政党間競合が、地域社会の変容とどう連動しながら展開するのか、という点にある。戦前日本の場合、二大政党の系譜は、ともに自由民権運動のなかから生まれた自由党系勢力と改進黨系勢力によって形づくられた。体系的なイデオロギーや、社会的属性（宗教・民族・階級など）にもとづいて明瞭に分岐しているとはいいがたい両党間の競合は、その中核的な性質が掴みづらく、研究者の評価も分かれがちである。だがかかる曖昧さにもかかわらず、両党間の競合が自己強化的に定着し、制度化されていくことそれ自体が、比較史的に見ても興味深い現象だろう。報告者は、この現象の考察にあたって、地域レベルで政党間競合が形成・固定化する局面を重視するものである。

本報告では、上記の問題関心を前提として、1890（明治23）年の帝国議会開設前後の静岡県内で、政党・政派間競合がいかなる展開をたどったかを検討する。戦前の静岡県は、自由党系勢力と改進黨系勢力が、他府県に比べて早期に、かつ激しく競合したことで知られている。その歴史の実態についてはすでに、原口清氏をはじめとする研究者が、様々な角度から解明してきた。19世紀中の大きな流れとしては、県会議員を中心とする改進黨系勢力（静岡県改進黨など）、より大衆的な広がりをもつ自由党系勢力（岳南自由党など）が分立した自由民権運動の高揚期から、「改進黨の天下」とも言われた初期議会期を経て、日清戦後には手段を問わない党勢拡張努力を強めた自由党系勢力が優位に立つ、という見取り図が示されている。

上記の豊富な研究蓄積をふまえつつも、本報告でこの問題を改めて検討したのは、(1) 自由民権運動期から大同団結運動期を経て初期議会期に至る時期の具体的な通観、(2) 大同団結運動期以降の両党勢力の組織・集団としての異同（およびその背景と変化）の理解、(3) 改進黨系勢力についてはその初期から、自由党系勢力については帝国議会開設前後から県内組織の中核的な存在と

の男、気でも狂ったかと、憐れみの色をあらはす俳人さへありました。件の男、やをら筆を執って、『頃より待ちし今宵かな』と下の句を書きました。『三日月の頃より待ちし今宵かな』。まことに古今の名吟であります。一座の人々はこれを見て、アッと感嘆の声を発しました。」

この名調子に満場寂として声なく、反対党の野次馬連中も固唾を呑んで謹聴した。そこで三谷候補、こう宣うた。「諸君！この三日月の名句の如く、話はしまいまで聴いて戴かなければ解りません。…どうぞ皆さま私の申上げますことを最後までお聴取り戴きまして御批判を願いたう存じます。」かくして始まった演説にこんどは一言のヤジもなく、演説会は聴衆に感銘を与えて終了したという。

思うに、言葉の力だけで野次馬を黙らせた三谷の政治家としての力量は大したもので、これこそ大人の域である。しかし、その高みまで三谷を登らせたのは、ほかならぬ野次馬たちであった。彼らが「好い子」でなかったから、三日月の名演説も生まれた。これが三宅のいう「鏝ぜり合い」である。司法も政治（議会制民主主義）も、「鏝ぜり合い」を経験しなければその担い手（裁判官や政治家）は成長しないし、大人になれない。そう思う。

例会のお知らせ

<11月例会>

日時：11月16日（土）14:00-17:00
場所：Web 会議システム Zoom/鎌倉文庫
申込方法：本誌2ページをご覧ください。
報告者：池田真歩氏（東京都立大学）
内容：「帝国議会開設前後の政党・政派
間競合：静岡県内の動向の再
検討」

<12月例会>

日時：12月21日（土）14:00～17:00
場所：Web 会議システム ZOOM/鎌倉文庫
申込方法：12月会報に掲載します。
内容：会誌合評会

<新入会員紹介>（敬称略）

横山鈴子 千葉県佐倉市

<会報に原稿をお寄せください>

会報原稿は、下記のアドレスにメールで送ってください。但し、掲載号については会報編集担当者にお任せください。どうぞよろしくお願いいたします。

メールアドレス：cq00053@nifty.ne.jp
（会報編集担当：川上）

静岡県近代史研究会会報 第554（月刊）

2024年11月10日

非売品（非会員は印刷実費100円）

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386（直通）

年会費：4,000円（メール会員は3,500円）

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：

<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>